

# 温州ミカンのグリーンな栽培体系

有田振興局農業水産振興課

時期	作業内容	病虫害防除	グリーンな栽培技術		
4	上 中 下 ↓ 除草等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かいよう病</li> <li>・訪花昆虫</li> <li>・灰色かび病</li> <li>・黒点病</li> <li>・アザミウマ類</li> <li>・カイガラムシ類の防除</li> </ul>	従来どおりの防除		
				5	上 中 下
7	上 中 下 ↓ 摘果	ジマンダイセン水和剤 (600倍) 夏用マシン油乳剤 (97%) (200倍) アドマイヤーフロアブル (3,000倍)	ジマンダイセン水和剤 (400倍) 夏用マシン油乳剤 (97%) (200倍) アドマイヤーフロアブル (3,000倍)		
		エムダイファー水和剤等の追加防除			
		ジマンダイセン水和剤 (600倍) +アピオンE (1,000倍) アグリメック (2,000倍)	ジマンダイセン水和剤 (400倍) +アピオンE (1,500倍) アグリメック (2,000倍)		
8	上 中 下	ジマンダイセン水和剤等の追加防除			
		ジマンダイセン水和剤 (600倍) スタークル顆粒水溶剤 (2,000倍)	ジマンダイセン水和剤 (400倍) +アピオンE (1,500倍) スタークル顆粒水溶剤 (2,000倍)		
9	上 中 下				
10	上 中 下				
11	上 中 下 ↓ 収穫				
12	上 中 下				
1	上 中 下 ↓ 土作り				
		2	上 中 下	・ミカンハダニ ・ヤノネカイガラムシの防除	従来どおりの防除

秋肥

春肥

# 温州ミカン黒点病防除薬剤の耐雨性向上による防除回数の低減技術

	現在の栽培体系 (6月中下旬～8月下旬)	グリーンな栽培体系 (6月中下旬～8月下旬)
追加散布の基準	前回散布の1か月後または累積降雨量が200～250mmに達した時点	前回散布の1か月後または累積降雨量が500～550mmに達した時点
6月中下旬	ジマンダイセン水和剤(600倍) 夏用マシン油乳剤(97%)(200倍) アドマイヤーフロアブル(3,000倍)	ジマンダイセン水和剤(400倍) 夏用マシン油乳剤(97%)(200倍) アドマイヤーフロアブル(3,000倍)
7月上旬	集中豪雨 エムダイファー水和剤等の追加散布	集中豪雨 追加散布なし
7月中下旬	ジマンダイセン水和剤(600倍) アグリメック(2,000倍)	ジマンダイセン水和剤(400倍) +アピオンE(1,500倍) アグリメック(2,000倍)
8月上旬	集中豪雨 ジマンダイセン水和剤等の追加散布	集中豪雨 追加散布なし
8月下旬	ジマンダイセン水和剤(600倍) スタークル顆粒水溶剤(2,000倍)	ジマンダイセン水和剤(400倍) +アピオンE(1,500倍) スタークル顆粒水溶剤(2,000倍)

## ●技術の特徴

近年、温暖化の影響もあり梅雨期や台風襲来時にこれまでにない降雨量を記録することが多くなってきています。地域の慣行では、温州ミカンの黒点病防除を行う際、累積降雨量が200～250mmで農薬散布しています。

降雨量が多くなると防除回数が増すうえ、防除適期を逃してしまいますが、今回紹介する防除技術により耐雨性を向上させ、より散布回数を少なくし、化学農薬の削減や省力化が期待できます。

## ●技術導入の留意点

- 温州ミカン以外のカンキツ類（中晩柑類等）ではジマンダイセン水和剤は600倍で使用する必要があります。

## ●安全使用上の注意点

- 農薬の使用にあたってはラベルに記載されている内容を確認し、適切に使用してください。
- 夏期高温時の使用を避けてください
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物などとの接触を避けてください。

## ●現地検証の結果

令和4年は降雨量が少なく散布回数の削減にはならなかった。しかし、防除効果については従来区よりも高い傾向が認められました。（資料1）

## 【試験の概要】

ジマンダイセン水和剤(400倍)+アピオンE(1,500倍)を使用することで、従来の体系に比べて、多雨年の黒点病の防除回数を1~2回削減でき、効果が同等以上となることを実証するために試験を行いました。

結果、今年は雨が少なく散布回数の削減にはなりませんでしたが、防除効果は従来の体系よりも高い傾向が認められました。

※注意：温州ミカン以外のカンキツ類（中晩柑類等）ではジマンダイセン水和剤は600倍で使用する

## 【試験の詳細】

試験場所：有田川町中井原のウンシュウミカン（晩生品種）植栽園地

試験方法：19樹を試験区、25樹を従来区、4樹を殺菌剤無散布区とした。下表とおりに薬剤を散布し、12月7日に各区4樹（80果/樹）について発病調査を実施。

		試験区	従来区	殺菌剤 無散布区
追加散布 の基準		前回散布の1か月後または 累積降雨量が500~550mmに達した時点	前回散布の1か月後または 累積降雨量が200~250mmに達した時点	—
供 試 薬 剤	6月17日 ※累積降雨量 227mm	ジマンダイセン水和剤(400倍) 夏用マシン油乳剤(97%)(200倍) アドマイヤーフロアブル(3,000倍)	ジマンダイセン水和剤(600倍) 夏用マシン油乳剤(97%)(200倍) アドマイヤーフロアブル(3,000倍)	夏用マシン油乳剤(97%)(200倍) アドマイヤーフロアブル(3,000倍)
	7月20日 63mm	ジマンダイセン水和剤(400倍) +アピオンE(1,500倍) アグリメック(2,000倍)	ジマンダイセン水和剤(600倍) アグリメック(2,000倍)	アグリメック(2,000倍)
	8月24日 426mm (12月7日まで)	ジマンダイセン水和剤(400倍) +アピオンE(1,500倍) スタークル顆粒水溶剤(2,000倍)	ジマンダイセン水和剤(600倍) スタークル顆粒水溶剤(2,000倍)	スタークル顆粒水溶剤(2,000倍)
試 験 結 果	発病果率	8.4%	29.1%	58.8%
	発病程度	1.2	4.3	12.4